

半田小学校で河川環境学習を開催しました。

半田小学校4年生の児童を対象に、「川の水をきれいにするための取り組み」について学習した後、身近な川の水や生活排水の水質検査、透視度検査を体験し、水をきれいにする事の大切さを学びました。

【実施概要】

日時：平成25年6月26日（水）10：30～11：30

場所：半田小学校

参加者：半田小学校 4年生 30名

徳島県 河川振興課 3名

内容：1 川の水をきれいにするための取り組み
2 水の汚れの原因（水質実験：透視度、CODパックテスト）

感想：水道水に比べて、半田川のほう汚れていることを初めて知りました。川を汚すと海も汚れることを知りました。

【活動状況】

○「川の水をきれいにするための取り組み」

川の役割や川と人の関わりなど、川に関する基本的なことを学びました。また、川をきれいにするための取り組みやその大切さを学びました。



○「水の汚れの原因」水質実験（CODパックテスト、透視度測定）

身近な河川の半田川と水道水の透視度を測定しました。測定結果は、測定できる範囲の中では、半田川と水道水は同じ値（最高値）となり、半田川の水は透視度が高いことがわかりました。次にCOD（化学的酸素要求量）をパックテストにより測定しました。半田川と水道水のCODを測定した結果、水道水に比べ、半田川のほうがCODが高いことがわかりました。また、川の汚れの原因となる生活排水として、身近にある食品（牛乳、ジュース、しょうゆ、スープ、米のとぎ汁、日本酒、焼き肉のたれの全7種類）のCODを測定しました。測定した結果、500mlの水に2～3滴程度混ぜたものでも5～80mg/lと高い値を示す結果になりました。このことから、残した食べ物を安易に流しや川に捨てることによって川がどれほど汚れてしまうかを知り、水質浄化のために自分達ができることを学びました。

